



「地域包括ケア病棟を開設しました」

NTT東日本東北病院 看護部長 鈴木 郁子

昨年10月から10床の地域包括ケア病床を立ち上げ、これまで20人を超える患者さんに対し地域での生活が可能となるようケアをしてまいりましたが、本年2月からさらに多くの地域包括ケア対象の患者さんを迎えられるよう、ベッド数を26床に増やし地域包括ケア病棟として運用を始めました。

地域包括ケア病床(棟)は、①急性期病床からの受け入れ②在宅・施設からの救急受け入れ③在宅復帰支援の3つの機能を持ち、これらを十分に機能させ、ひとつひとつの症例を積み重ねていくことが、国の施策である地域包括ケアシステムの目指すところだと考えます。

当院は、地域完結型医療、急性期病床の適正利用などが叫ばれる中、この病床(棟)を利用させていただくことで地域と密着する病院として機能すると考えています。

地域包括ケア病床と急性期病床の違いは、一つは患者さん・ご家族・医師・看護師・セラピストなどが退院に向かい目標を持って協働できるという点です。急性期病床では治療後もなかなかそれぞれのベクトルが合わず退院後の方向が定まらないため、患者さん・ご家族・医療職間の調整が必要でした。地域包括ケア病床では退院し地域で暮らすというベクトルが一緒に、すべてそれに向かい進んでいくようになりました。二つ目は医療職間の協働が進み患者さんに大きな効果をもたらすという点です。今年度の10月から12月の平均在院日数は27日と、定められている60日以内を大きく下回っています。多様な職種が協働で患者さんに関わることの効果は大きいと感じています。更には、介護福祉士を配置し身体ケア・見守り・支援などがより一層行き届くようになりました。

今まで、在宅支援に関わる皆様と60回を超す在宅ケアカンファレンスを開催し、様々なディスカッションを重ねてまいりました。これまでの検討結果をふまえ地域包括ケアシステムの浸透並びに地域包括ケア病棟の稼働を高めていくため地域の皆様と協力しながら症例を積み重ねていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。

病棟編成の紹介

5階病棟
68床

内科の各領域の専門治療・看護の充実
急性期・慢性期・終末期

4階B地域
包括ケア病棟
26床

在宅復帰に向けた支援の充実
リハビリ・退院支援

4階A病棟
32床

呼吸器の一貫した医療・看護を推進
在宅・外来・リハビリ・急性期・慢性期・終末期

3階病棟
61床

周術期急性期医療・看護の充実
女性病床を充実

病院理念

人権と生命の尊厳を守り、心のこもった
温かい良質な医療の提供に努めます。

～目次～

- 病棟編成について……………P.1
- 検査紹介 骨密度測定……………P.2
- 病院研修会等記事、市民公開講座……………P.3
- 糖尿病イベント等記事、TOPICS ……………P.4

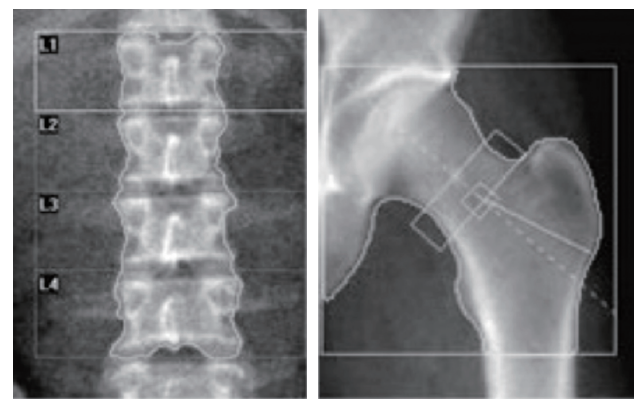
検査紹介 骨密度測定

近年、高齢化や若い女性の無理なダイエットによっておこる骨粗鬆症が増加しています。自覚症状のない人も含めると日本では 1100 万人超、その 8 割が女性で、60 代女性の 3 人に 1 人、70 代女性の 2 人に 1 人がかかっていると推計されています。骨粗鬆症による骨折を防止することは、高齢化社会における高齢者の「Quality Of Life」を確保するための急務の課題となっており、早期より骨密度を測定し、骨量保持のため日常生活の自己管理が重要となっています。

骨粗鬆症学会等から出されている骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインによれば、骨密度測定は、腰椎と大腿骨近位部での DXA 法が望ましいとされています。

当院では、米国 HOLOGIC 社製 QDR Discovery-A を導入し、DXA 法での骨密度測定を行っています。検査は 10 分程度かかりますが、それによって診断と治療、治療の効果判定に重要な情報が得られます。

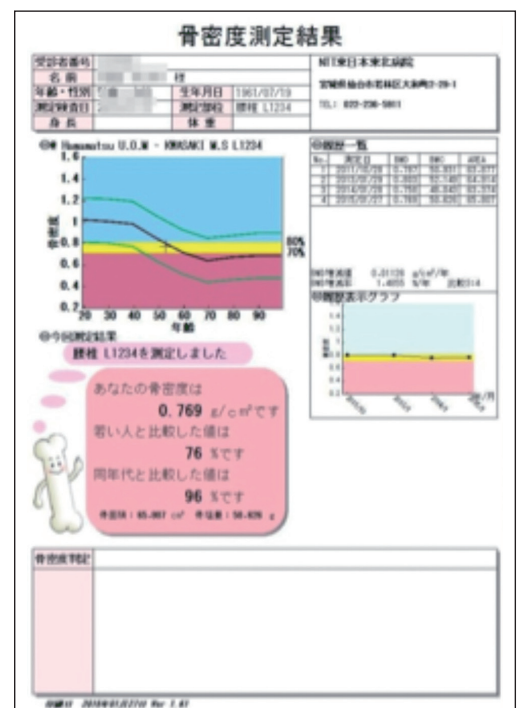
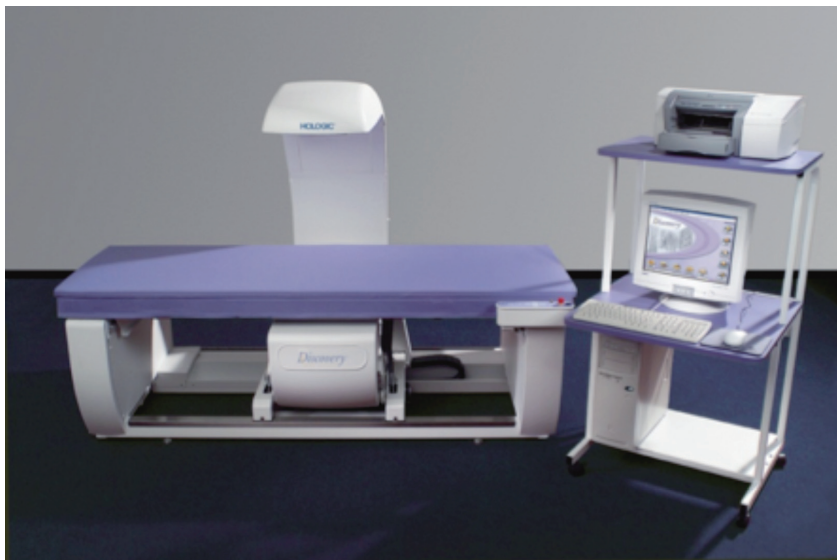
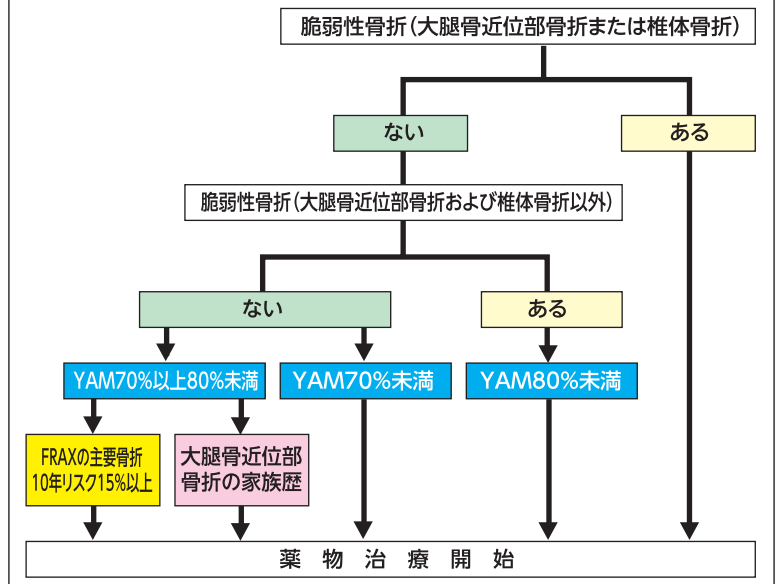
骨折リスクを予測し、患者さんの QOL 低下、死亡率の上昇を食い止めるために、ぜひ当院の骨密度検査をご利用ください。



腰椎正面

大腿骨

原発性骨粗鬆症の薬物療法開始基準



病院研修会 SBAR

平成26年11月14日(金) NTT東日本東北病院



11月の医療安全強化月間の一環として、「SBAR」についての院内研修を行いました。

『SBAR（エスバー）について』

講師をお願いしたのは、

東北大学病院 庄子由美 副看護部長です。

「SBAR」は医師への的確な報告だけではなく、チーム内でのコミュニケーションや情報共有、多職種との連絡や連携などさまざまな場面で活用でき、コミュニケーションエラーを防ぐためにとても重要です、とのご講義でした。

「なんでやねん力！」セミナー

平成26年12月3日(水) 若林区文化センター



Wマコト(ダブルマコト)の2人



自分のキャッチフレーズを発表

『吉本新喜劇から学ぶ！最強の医療コミュニケーション「なんでやねん力！」』と題してWマコト(ダブルマコト)のお二人をお招きしました。

毎日TVでよく観かける芸人さん達の名前をあげコミュニケーションには

欠かせない①笑顔②相槌③共感④(コミュニケーションのスパイスになる)擬音語⑤第一印象(キャッチフレーズ)についてのお話でした。たくさんの笑いを交えた講義はあっという間で、予定していた75分間がとても短く感じました。

市民公開講座

第42回

『ワクチン受けていますか?』

呼吸器内科 医師 安達 哲也



(H26.11.19)

第43回

『認知症の予防と早期発見』

神経内科 医師 大和 博



(H27.1.21)

世界糖尿病デー イベント

平成26年11月13日(木) NTT東日本東北病院



昨年に引き続き今年も世界糖尿病デーに合わせ、玄関ホールにて当院の糖尿病チームによる啓発イベントを開催しました。各専門スタッフによるお薬や食事の相談受付け、肥満度・血糖の測定、糖尿病に関する資料の配布など多くの情報提供の機会となりました。

第5回 糖尿病連携セミナー

平成26年11月25日(火) 江陽グランドホテル



今年は特別講演に、杏林大学大学院医学研究科より犬飼浩一准教授をお迎えし『肥満 2 型糖尿病に対する治療戦略』のご講演をいただきました。地域の先生方、病院スタッフの皆様、100 名を超えるご来場をいただき大変有意義な会となりました、誠にありがとうございました。



平成26年12月24日
院長サンタ



平成27年1月14日
どんと祭 裸参り



平成26年12月25日
クリスマスロビーコンサート

Topics



〒984-8560 仙台市若林区大和町2-29-1
NTT東日本東北病院

地域医療連携室

TEL 022-236-5899
FAX 022-236-5920